

心臓性突然死から子どもを守る

—学校心臓検診とAED—

はねだ のり ゆき
羽根田 紀 幸

キーワード：学校心臓検診，心電図，突然死，AED，心肺蘇生教育・講習

要 旨

学校心臓検診とAEDの普及・心肺蘇生教育講習は，児童・生徒を心臓性突然死から守るための車の両輪である。学校心臓検診は開始から半世紀以上が経過し，昭和60年頃からは心臓突然死のリスクがある心筋症・冠動脈や大動脈弁の異常・致死的不整脈の抽出が主目的となり，現在に至っている。心臓性突然死の頻度は年齢が上がるほど高くなるので，小学4年以降は省略4誘導よりも標準12誘導心電図を一次検診で全員に行うことが推奨されている。一方どんなに丁寧な心臓検診を行っても，致死的不整脈・心筋症・冠動脈疾患・心臓震盪など心臓性突然死をきたす可能性のある疾患や状況をすべて事前予測することは不可能である。AEDはそれをカバーするものであるが，いざという時のためには設置場所や複数台設置の検討とともに，救急蘇生の事前講習が大切である。各学校医には，AEDの台数や配置の確認と心肺蘇生教育・講習の機会を作ることをお願いしたい。

はじめに

本稿は，2021年6月の島根県医師会学校医部会総会・研修会で講演した内容をもとに一部改変したものである。子どもの心臓突然死を少しでも減らすことができればとの思いから，2021年度発行の島根県小児科医会会報第34号と出雲医師会学校医部会会報けんこう第49号にも寄稿したが，さらに若干の修正を加え本誌にも投稿する。

半世紀以上の歴史があるわが国の学校心臓検診は，世界でも類をみないシステムである¹⁾。島根県の学校心臓検診に40年以上関わってきた者として，子ども達の心疾患を早期に発見し，心臓性突然死から子ども達を守ることに少しの貢献はできたと自負はしているが，限界や問題もあると感じている。いままでの振り返りと現状の分析から，今後に資することができれば幸いである。

学校心臓検診の目的と主目的の

変遷，検診の流れ

学校心臓検診の目的は始まった当初から現在ま

Noriyuki HANEDA

どれみクリニック基常小児科福代皮膚科

連絡先：〒693-0021 出雲市塩冶町1523-2

どれみクリニック基常小児科福代皮膚科